# 普及活動情勢報告（平成３０年７月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

## 施設ミョウガの腐敗防止へ！　～ミョウガ腐敗防止対策プロジェクト会の開催～

対策を協議、検討

６月 21 日、ＪＡ土佐くろしお資材センター会議室で、ＪＡ土佐くろしお、農業技術センター、専門技術員らの参加により、今年度１回目のミョウガ腐敗防止対策プロジェクト会を開催しました。

農業技術センターからは、出荷場での近赤外線照射や給液管理方法の違いによる腐敗や水やけ症対策の取り組み、農業改良普及課からは培地冷却の試験などについて、これまでの取り組みと今年度の取り組みについて報告、検討しました。

農業改良普及課は、これからのミョウガの需要期に向け、ＪＡ、関係機関と情報共有しながら、腐敗防止対策への取り組みを強化・支援して行きます。

## 事故防止を目指して　～ほ場、農薬保管庫、調製場所の点検活動～

点検風景

ＪＡ津野山園芸部では、異物混入・農薬事故等を防止し、消費者から信頼される産地を目指して、６月 29 日から生産者 67 戸のほ場、農薬保管状況、調製場所の点検を行っています。

農業改良普及課は、ＪＡとともに点検シートに基づいて点検を行い、昨年度の問題点の改善実施の有無やさらに工夫している点について、生産者と確認しました。

生産者からは「昨年の点検時から気になっていた農薬の保管を改善した。」「調製場所は、作業終了後に必ず掃除をしている。」といった取組みが聞かれました。

農業改良普及課は、ＪＡと協力して全戸点検を行い、生産者と改善点を共有しながら、ＧＡＰの活動を進めていきます。

## ミョウガの腐敗に注意を　～ＪＡ土佐くろしおミョウガ部会が２回目の目慣らし会を開催～

規格等を確認する生産者

ミョウガの夏場の出荷に向け、ＪＡ土佐くろしおの大間・浦ノ内・上ノ加江の各集出荷場において７月３日から７月 13 日にかけ、ミョウガ部会の「出荷目慣らし会」が地区の集荷場で計 10 回開催され、197 戸 91％）の農家が参加しました。

ＪＡ販売課から腐敗や異物混入の注意を、農業改良普及課からは、水やけ症対策、ＧＡＰの取り組み、環境測定装置の導入に利用できる補助事業などについて情報提供を行いました。高温期となるこの時期の目慣らしは、腐敗による市場事故の面からも重要で、参加者した農家は熱心に聞いていました。

農業改良普及課は今後も、これからの高温期の出荷に向け腐敗対策とミョウガへの環境測定機器の導入を推進していきます。

## 販路拡大を目指して！　～6次産業化支援チーム会の開催～

チームシルクのチーム会の様子

平成30年度の6次産業化支援チームの取り組みが始まりました。対象事業者は2事業者で、これからアドバイザーからのアドバイスを受けながら、既存商品の販路拡大に向け取り組みを進めていきます。6月21日に大野見七面鳥生産組合の「しまんとターキー」の販売戦略について検討し、7月9日にはチームシルク（梼原町）の「シフォンケーキ」の販売額アップのための事業戦略について検討しました。それぞれにチーム会の中で、課題整理を行い、今後の取り組みの方向性ついて検討することができました。

農業改良普及課は、今後も商品の販路拡大に取り組む事業者への支援を行っていきます。

## 農業の基礎知識を学ぶ　～新規就農者激励会　～

講演会の様子

7月12日、道の駅「かわうその里すさき」でJA土佐くろしお４ＨＣ 主催の新規就農者激励会が開催され、新規就農者、４ＨＣ、関係機関ら25名が参加しました。

この中で、農業改良普及課が新規就農者、４ＨＣ員らを対象に「農業の基礎知識」についての講演を行いました。参加者には、現場で多い計算例や土壌と肥料の基本的な知識等について理解してもらうことができました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して新規就農者の育成に向け、取り組んでいきます。

## 農福双方の発展と社会貢献を目指して！　～福祉支援機関の農業分野視察会を開催～

雨よけシシトウハウスの視察

6月29日ＪＡ土佐くろしおの協力により、福祉分野支援機関による雨よけシシトウの栽培状況及び出荷場の視察会を開催しました。

農業改良普及課は、県福祉部署と連携し今回の企画・進行を行い、趣旨説明と今後の取り組みについて提案しました。

参加者からは、就業に向けた農業体験の可能性や障害者以外の就労支援の質問等があり、受け入れ体制の可能性を検討するとともに、照会ルート等について整理しました。

農業改良普及課は、農業と福祉の双方がお互いの現場を知り、農福双方の発展と社会への貢献に繋げるため、農業関係者による福祉分野の視察を企画するなど、引き続き関係機関と連携した取り組みを進めていきます。